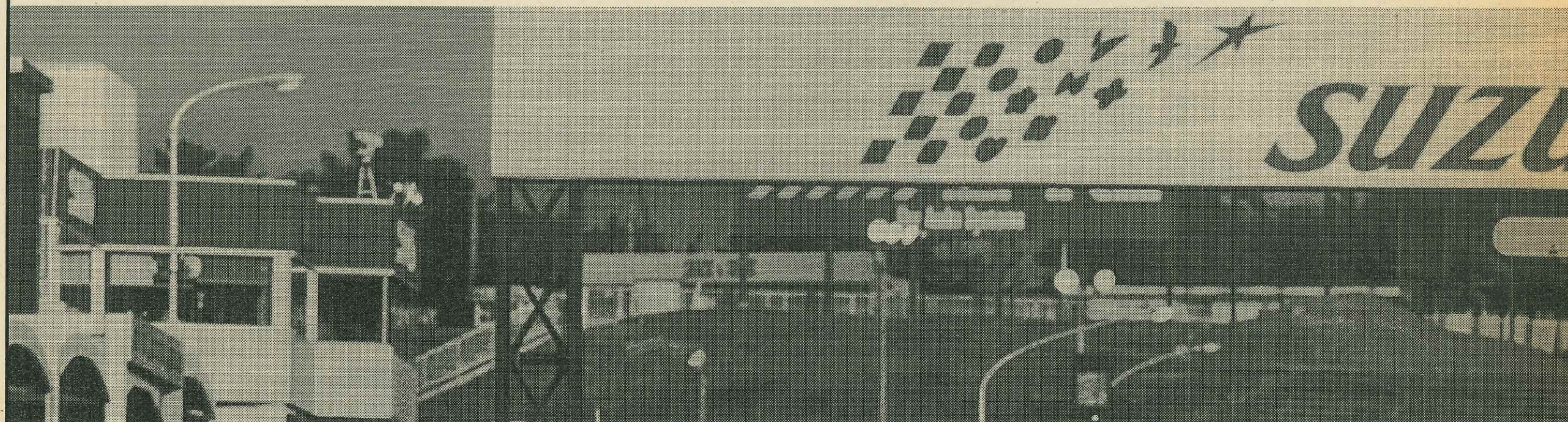
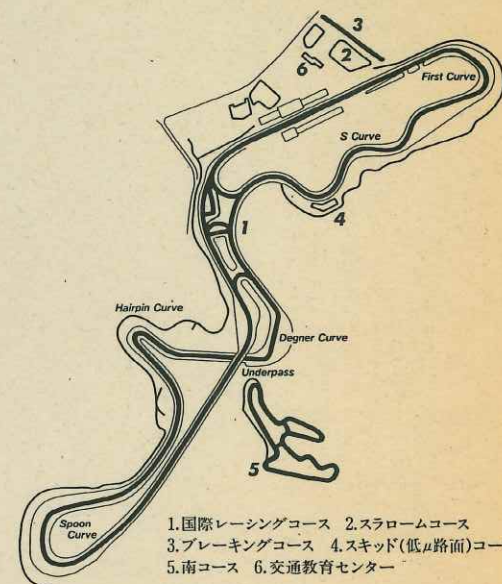


**HONDA** スピードはひかえめに、シートベルトをしめて安全運転。

# もうひとつの 鈴鹿サーキット。

「速さを競う」スズカは、知られていますが  
「安全を競う」スズカも、知っていただきたい。  
鈴鹿サーキットは、日本の安全運転教育の発祥地です。





写真は、サーキットコースにおけるフルブレーキトレーニングのシーンです。

力いっぱいブレーキをかけた。なのに止まらない！  
レースでおなじみの鈴鹿サーキット。ここで行なわれている、フルブレーキトレーニングのシーン。腕を自慢されるドライバーでさえ、きちんと止まれる方はわずかです。いかにできないかを知れば、おのずとムリな運転はしなくなる、のですが。こうしたことは公道で試せるはずもなく、フルブレーキの難しさひとつ見ても、実感としてお分かりの方は残念ですが、多くはいらっしゃいません。

クルマによる事故。それは、とても大きな痛みです。私たちは、クルマをより安全な乗り物にすべく努めてきました。しかし、クルマが進化しても、動かすのは、人。ドライバーのマナーと技術こそ、安全のもうひとつの基本。ホンダはいちはやく、この点を見つめていました。「危険を安全に体験するなかで、真の安全運転とは何かをつかんでほしい」。事故原因の多くは、運転技術の過信。だからクルマの能力と自分の技量の限界を知っていただく必要がある。そんな気持ちで、ホンダが安全運転教育をスタートさせて、ことしで28年目。その長い歴史の源に、鈴鹿サーキットがありました。

鈴鹿サーキット。昭和37年にホンダが建設したこの日本初の国際レーシングコースは、日本にモータースポーツを根づかせたばかりか、この競争の場が、のちに国産車の性能を世界一流のものにするきっかけになったと評価されています。そして鈴鹿には安全運転教育のメッカという一面もあつたのです。当時は、本格的なテストコースもハイウェイもない頃。しかし東名高速道路の建設がはじまつており、時代はいよいよ高速化時代を迎えようとしていました。クルマもそれに見あう性能を身につけはじめました。クルマづくりの技術を追求する一方です。使う方の運転技術を高めていくことも、これから絶対必要になる。それに鈴鹿を役立てよう。私たちは、かねてからの思いを実行に移しました。

鈴鹿の完成2年後、東名開通。私たちは高速時代の運転技術を学ぶ場として、鈴鹿を提供しました。まず業務でクルマを運転される方に。第1号は交通機動隊「白バイ隊」の皆さま。続いて官公庁、民間会社のドライバーに参加を呼びかけました。運転免許をお持ちの方々への実践教習も、もちろん日本初のこと。鈴鹿での経験は、独自の安全運転メソッドとして蓄積されていきました。そして昭和45年から一般の方への安全運転スクールを開始したのです。

鈴鹿をつくり、カラダで「安全」を伝える。私たちのやり方は、人が主役のアプローチ。ドライビングスクールでも、運転の技術やセンスだけでなく、人を思いやるセーフティ・マインドを高めていただけるよう、力をつくしています。生命をあずかる製品をおとどけしている。この重い事実を胸に、私たちホンダはこれからも、鈴鹿にはじまった願いをひろげていこうと思います。

◎ホンダドライビングスクールは、鈴鹿崎玉、福岡の各交通安全教育センターで開催しています。お申し込み、お問い合わせは、お近くのホンダ四輪販売店(フリモクリオ、ベル)、またはホンダ安全運転普及本部(電話03-5412-1575)までお寄せください。



人と、地球に  
「夢・発見・ドラマ」を。